

# 目に青葉 山ほととぎす 初鯉

この句は、山口素堂(やまぐちそどう)という、江戸時代前期の俳人の作だそう  
だ。正しくは「目には青葉 山ほととぎす 初鯉」で、青葉、ほととぎす、鯉と3つも  
季語が入っているという変わった俳句のようである。

「ほととぎす」の「俳句」ときたら、有名な戦国武将の三人が鳴かない  
「ほととぎす」をどうするのかの性格を現したのが下の句である。

「鳴かぬなら 殺してしまえ ほととぎす」(織田信長)

これは、織田信長の短気さと気難しさを表現している。

「鳴かぬなら 鳴かして見せよう ほととぎす」(豊臣秀吉)

これは、豊臣秀吉の好奇心旺盛なひとたらしぶりを表現している。

「鳴かぬなら 鳴くまで待とう ほととぎす」(徳川家康)

これは、徳川家康の忍耐強さを表している。

なお、織田信長の末裔に当たる、フィギュアスケート選手の織田信成はテレビ  
番組のインタビューで、信長を詠んだ句への返句として

「鳴かぬなら それでいいじゃん ほととぎす」と詠んで話題となったそうだ。

ここで一句、「鳴かぬなら? 良く見ればメス! ほととぎす」 恵夢副長  
なんか、TVアニメのポケモンに出てくるオオキド博士みたいになってきたぞ!

ものすごーく、横道にそれてしまった。なぜ? 「ほととぎす」なのかは、今朝(6/2)ボーイ隊長から  
つつじーヒルズで、「ほととぎす」の初鳴きを確認したとのメールが入った。物好きの2人の今年  
度の取組みは初鳴きの日を記録しよう! であり、ウグイスの初鳴きの確認から始めて、今後は、  
野鳥だけではなく、鈴虫・マツムシなどの昆虫の初鳴きを調査(単なる通勤途中で聞くと表現  
方法もあるようだ?)しようと思っている。なぜ、こんなことに興味を示しているのかとの疑問が  
あると思うが、日本には四季があり、その季節を気温や、太陽の位置などで感じる取るのも良い  
が、鳥のさえずりや虫の音、草花(まさしく花鳥風月)で季節を感じ取るのも風流である。なんか、  
サザエさんの波平さんとイササカ先生の会話のようだ。やはり歳を取ってきた証拠か! カブトム  
シの、初捕獲日の記録もせならぬぞ! たぶん地球温暖化の進行状況の調査には役立つであ  
ろう。昨年、「ほととぎす」の初鳴きは、関東地方は5月24日に確認されたそうである。

号外

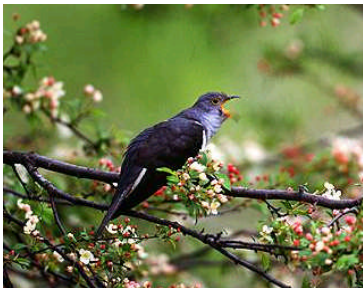


## M副長新聞

ついに、侘(わび)・寂(さび)の域に到達か?



2009.6.5  
第34号



### 【ほととぎす(不如帰)】

インドや中国南部からの渡り鳥。体長は 28cm ほどで、ヒヨドリよりわずかに大きく、ハトより小さい。頭部と背中が灰色で、翼と尾羽は黒褐色をしている。胸と腹は白色で、黒い横しまが入るが、この横しまはカッコウやツツドリよりも細くて薄い。目のまわりには黄色のアイリングがある。食性は肉食性で、特にM副長の大嫌いなケムシを好んで食べる感心なヤツだ。また、自分で子育てをせず、ウグイス等の巣に托卵する習性がある。泣き声は、「てっぺんかけたか」とか「とうきょうとつきよきよかきよく(東京特許許可局)」と聞こえる。  
\* 托卵(たくらん)とは、卵の世話を他の個体に托する動物の習性のことである。代わりの親は仮親と呼ばれる。ほととぎすの場合は、ウグイスの巣に産むことが多いそうだ。



託卵された卵は、巣の持ち主のヒナより早く生まれることが多い。先に生まれた本種のヒナは巣の持ち主の卵やヒナを巣の外に放り出してしまい、自分だけを育てさせる。何故托卵をするのかというのは未だ完全には解明されていないが、自身の体温を保つ能力が低いという説が有力であるようだ。

←写真はオオヨシキリに育てられるカッコウのヒナ。



←これは「ツツドリ」  
メスの鳴き声は「ピピピ…」と聞こえるが、繁殖期のオスは「ポポ、ポポ」と繰り返し鳴く。この鳴き声が筒を叩くような響きがあり、和名もここに由来する。これも託卵。



←これは、静かな湖畔で良く鳴いている「カッコウ」。これも託卵をたくらんでいる。泣き声は、ご存知「カッコー・カッコー・カッコー…」である。



↑これは「ジュウイチ」鳴き声が「ジュウイチ…」と聞こえることから名前だった。これも託卵。



←山野草の「ほととぎす」ユリ科のホトトギス属の花で、名前の由来は白地に紫の斑点が、ホトトギス(鳥)の胸～腹の横縞模様に似ているから名付けられたらしい。